

ご挨拶

植草学園さくら会 会長 小林 鶴枝



幼児教育専門学校卒
13期生

会員の皆様におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、各同窓会活動および植草学園さくら会の活動に、ご理解を賜りまして、心より感謝とお礼を申し上げます。

母校である学校法人植草学園は、平成29年11月で創立113周年を迎えます。前身である千葉和洋裁縫女学校が明治37年に設立されて以来、一世紀以上の歴史を刻んでまいりました。戦前から続く、植草学園の歴史と伝統の重みを一言で現すことはできませんが、先人の御努力と御苦労は想像しがたく敬意を払わずにはられません。

現在の植草学園は、小倉キャンパス(千葉市若葉区)を中心に、弁天キャンパス、美浜キャンパスで、園児、高校生、短大生、大学生が学んでいます。また、昨年度からは「千葉県生涯大学校」の指定管理者として、6つの学園の管理・運営に携わるようになり、人生の大先輩も多く大学内を



H28.4.小倉キャンパスの桜

訪れてくださるようになりました。幅広い年齢層の方々の学びの場として、地域社会にしっかりと根を下ろした取り組みを続けております。私たち同窓生にとりましても、大変に喜ばしい発展を遂げております。

今は亡き母校の校長先生が、私たち同窓生を、「学園の宝」と呼んでくださいました。

この「学園の宝」とは、とても嬉しいお言葉です。社会人の先輩として、後輩たちには、社会で貢献することの尊さ、専門職であれば現場の素晴らしさを伝えていけるよう、温かな対応を心がけていきたいと思っております。社会でお役にたてるよう、小さな努力を続けていくことが、やがては植草学園の評判(口コミ)になり、この小さな学園が生き残っていくためには、大きな力になっていくことと思っております。

「誠実・努力・謙譲」私たちも、がんばっていきましょう。今後も、在学(校)生への支援と母校の発展に寄与するため、植草学園さくら会ができることを、微力ではありますが、皆さま方と進めて参りたいと思っております。変わらぬ御支援をよろしくお願いしたいと存じます。

地域との交流がすすむ植草学園

学校法人 植草学園 理事長 植草 和典

今年の緑栄祭(植草学園大学・短期大学祭)は好天に恵まれ、多くの来客者が訪れ盛大に開催できました。特に、ちいさな子ども達が大勢集まってくるところは、植草学園大学・短期大学の特色かと思っております。こども達が楽しめるジャンボ滑り台、巨大迷路、新聞紙プール、シャボン玉やプラバンなどが、学生達によって準備され運営されています。今年はこども御輿が登場し、子ども達との一体感が増したようです。来訪者の中には障害のある方とその家族の方も見かけられ、「障害や困難性のある人もない人も共に生きる社会」づくりを目指す大学、短期大学の行事として、意義のあるものになりつつあります。大学祭の



最後には、昨年から行われるようになった打上げ花火と仕掛け花火が、小倉町会の皆さんの協力によりグラウンドで上げられました。地域の人たちと共に楽しめる大学祭となり、地域における植草学園の存在が認められてきたようです。

また、1月には小倉キャンパスでは、地域の子供達を招いたビオトープ祭りを計画しています。当日はキャンパス内の植草共生の森(ビオトープ)を探索したり、ビオトープ内にある段々田んぼで収穫された餅米で、餅つきなどを行います。これも地域交流のイベントですが、学生や地域の子供達自然を楽しみながら自然を大切にすることを育むことをねらいとしており、教育的な意義を含んだものです。

学園では中期目標に地域貢献を掲げており、弁天キャンパスの高校やこども園でも地域との交流を進めています。これまで植草学園は地域と共に歩んできました。今後も地域と連携し、地域を支える人材の輩出に努力していきたく思います。



学びと、地域交流と、癒やしの場

植草共生の森

第3回ビオトープ祭開催

平成29年1月21日「植草共生の森第3回ビオトープ祭」が開催されました。開催1週間前には大寒波が襲来、千葉でも雪が降るなど寒い日が続いていましたが、当日はお天気も回復、穏やかな日差しのもと大盛況のビオトープ祭となりました。

植草共生の森で収穫された餅米で餅つきをしたり、焼き芋やバームクーヘン作りをしたりして、近隣地域の方々や子どもたち、学生、教職員が楽しく交流する時間となりました。さくら会メンバーも、つきたての餅を丸めて配るお手伝いをしました。

来年もイベントを開催する計画です。餅つきの餅米は、田植えから草取り稲刈り、そして天日干し、脱穀、粉すりと、年間を通して作業を行います。またその他にも様々な活動を行っています。森の中をゆっくりと散歩しながら深呼吸。日頃の疲れを癒やしに是非一度共生の森にお越しください。お待ちしております。



バームクーヘン



お餅つき



森の中で遊ぶ

短大 福祉学科 地域介護福祉専攻

「ワーキングスタディコース」誕生

平成29年度から、植草学園短期大学 福祉学科 地域介護福祉専攻に「ワーキングスタディコース」が新設されます。本学が指定する介護施設等で働きながら介護福祉士の養成課程で学ぶことができるコースです。

介護実務経験を積みながら、短大で学んだ知識と技術を実践の場で確認することができます。介護実務で得た収入は学費に充当することが目的で、5割程度の学費を捻出することも可能になります。働きながらだからこそ、学ぶ内容が見えてきます。学ぶ必要性が明確になります。もちろん卒業と同時に介護福祉士国家試験受験資格が取得できます。入学金の半額が減免、学費の分納や奨学金制度も利用できます。

詳しくは入試・広報課にお問い合わせください。



学校法人植草学園は千葉県生涯大学の 管理運営に関する協定書を締結 平成28年2月23日



学校法人植草学園は、千葉県が設置している生涯大学の管理運営に関する協定書を締結しました。生涯大学は、55歳以上の方が、新しい知識を身につけ、仲間づくりを図り、学習の成果を地域活動に役立てるなどの社会参加、福祉施設、学校等におけるボランティア活動、自治会の活動の担い手となることを促進することを目的に県内5地域に設置されています。本格的な少子高齢化の進展にともない、高齢者福祉は様々な面で課題を抱えています。その中で植草学園が協働、協力できることを千葉県とともに考えながら進め、取り組んでいきます。ご興味のある方は各学園に直接お問い合わせください。

植草学園大学附属弁天こども園がスタート

平成21年に千葉市認可の定員30名の小規模保育園の開園から7年、28年4月に、幼保連携型認定こども園「植草学園大学附属弁天こども園」がスタートしました。0歳児から5歳児までの子ども約140名が在園しています。

植草学園の建学の精神(徳育教育=心の教育)を保育の基盤として、一人ひとりの子どもの最善の利益を保障し、人格形成の基盤と未来を拓く力を培い、こども園の社会的役割を認識し、人と人のつながりを大切にしながら豊かな社会づくりに貢献することを設置のポリシーとし、新たなスタートとなりました。



「弁天サロン」月に一度程度開催
在園児の保護者対象



「アトリエ」廃材を使い素敵なものづくり
在園児の保護者対象

植草学園さくら会 第7回「大抽選会」報告

植草学園さくら会企画「大抽選会」は、多くの皆様のご協力をいただき、盛会に終えることができました。10万円の売り上げを学園に寄付いたしました。
開催日：平成28年11月12日(土) 大学緑栄祭

訃報

学校法人植草学園 植草範子 元副理事長におかれましては、平成28年4月14日に永眠されました。(享年85歳)



故 植草範子 元副理事長は、植草幼児教育専門学校長、植草学園短期大学学長を永年に渡り務められ、学園の振興、発展に多大なご尽力をいただきました。

優しく時に厳しく、学生の一人ひとりに常に声をかけてくださいました。すべての学生を我が子のように愛し大切にしてくださいました。また、さくら会顧問としても沢山のお力添えをいただきました。ここに植草範子先生のお人柄を忍び、ご厚情に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

植草学園大学

卒業生の皆さんとともに発展を!

植草学園大学 学長 浦野俊則



卒業して何年になりますか? 社会人になると、何かと背負うものが多くなり、学生時代の身軽さを懐かしく思うものですが、いかがですか。

大学は開学して九年目を迎えています。年々、教育の質の向上に努め、高い就職率を維持しており、卒業生にとって、社会で誇れる大学にしたいと思っています。どのような活動をしているか、時にはホームページをのぞいてみてください。

平成28年4月から、1棟3階に学生用の自習室「トライアルコート」を開設しました。小学校の教室を再現したコーナーでは模擬授業ができるようになっています。模擬授業を収録して検討するコーナーもあります。

発達教育学部では、幼稚園や保育園の就職はほぼ100%です。29年度採用教員の試験には現役で15名が合格し、高い合格率となりました。保健医療学部では理学療法士の国家試験合格率が例年90%に達しており、本年度も高い合格率になることと思います。又、卒業後も努力を続けて、採用試験に合格された方がいます。卒業生の皆さんの努力が報われ、大学としてもうれしく思います。

同窓会や大学祭などのお際には、ぜひ母校に来てください。きっと、学生時代を思い出し、気持ちを新たにできると思います。大学は、卒業生の皆さんと、永くおつきあいしていきたいと思っています。

ご挨拶

植草学園大学同窓会 会長 西川 嘉人



皆様こんにちは、植草学園大学同窓会会長の西川嘉人です。今年度も同窓会活動への参加、ご協力ありがとうございました。今年の緑栄祭での卒業生の集いでは、1期生の中から初めて参加しましたという方がいました。近い卒業生が大学に顔を出してくれるのも嬉しいですが、卒業して時間が経つ同窓生が来てくれるのは更に嬉しい出来事でした。

また、今回の会報では卒業生の活躍と言うことで私と同じ1期生から尾形君の活躍を紹介させてもらっています。社会に出て日常ではなかなか会う機会も減ってしまった仲間達がこのように活躍したり、たまに会って話を聞いたりできるのはとても嬉しく、励みになります。

ところで、4月に新しく入学する学生は、私が在学中に実習に行った時の小学校6年生と同じ年齢です。当時小学生だった子供たちが大学生になり、これから様々なところで活躍をしていくのだなと考えるとワクワクしてきます。

新入生でも同窓生でも、次はどんな話が聞けるのかと考えると更にワクワクしてきますね。皆さんお忙しいとは思いますが、たまには時間を見つけて大学にふらっと顔を出してみても面白いかもしれません。

次回の緑栄祭でもまた卒業生の集いがある予定です。是非顔を出してみてください。

訃報

特別支援教育研究センター長 植草学園大学 発達教育学部 尾崎祐三教授におかれましては、平成29年1月13日に永眠されました。(享年66歳)

植草学園での経歴 | 平成27年4月～ 発達教育学部 教授

植草学園大学 発達教育学部 多田(岩本)昌代 准教授におかれましては、平成28年9月6日に永眠されました。(享年43歳)

植草学園での経歴 | 平成18年4月～平成20年3月 植草幼児教育専門学校(平成20年3月閉校)講師
平成20年4月～ 発達教育学部 准教授

ここに深く哀悼の意を表すると共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



植草学園大学 発達教育学部 卒業 1期生 尾形 優一さん



大学時代は、様々なことを学びました。特に、保育所保育指針や解説は、指導計画作成にあたり、現在でも活用しています。その他にも講義で使用したノートや教科書を振り返ることもあります。

実技の面でも、赤ちゃんの人形を使って、オムツ替えの練習をしたり、担当の先生や仲間と実際に外で鬼ごっこなどをして、汗を流したりしたこと、今、仕事をしていて似たような場面があり、役に立っていると感じています。

保育という仕事は、未来を担う子どもたちにとっての基礎を培う大切で重要な仕事です。また、保護者でも見ることが出来ない成長や笑顔を間近で見ることが出来る、素敵な仕事です。もちろん、責任もある仕事ではありますが、それ以上に他では味わうことの出来ない経験や楽しさもあります。

毎日、勉強の日々ですが、立ち止まって考えた時に、非常にやりがいを感じる仕事だなと感じます。熱い志を持った保育士が増えると良いと思います。

緑栄祭～卒業生の集い～ 11/13

今年も緑栄祭の二日目に卒業生の集いとして懇親会・ビンゴ大会を行いました。会には1期生から昨年度卒業の5期生まで、たくさんの方々が集まりとても賑やかなものとなりました。今年はビンゴの景品に高級牛が加わったことで盛り上がり、とても楽しい会となりました。参加して下さった皆様、ありがとうございました!



編集委員より

平成28年度と同窓会の活動はいかがだったでしょうか。来年は同窓会6年目になります。こんなイベントをやってほしい、ビンゴの景品はこんなものがいい等々、みなさんのご意見をお近くの同窓会役員にお伝えください! 卒業生全員で同窓会をより良いものにしていきましょう!!

植草学園さくら会会報編集委員 西川嘉人 和田鈴音楠

植草学園短期大学

元気な「実家」にお運びを

植草学園短期大学 学長 中坪 晃一

さくら会にとって「小倉キャンパスは、実家です」とおっしゃったのは3代短大・初代大学学長故小出進先生（「さくら会」会報3号）先代理事長故植草昭先生の言です。その実家は元気です。変貌を遂げています。大災害発生時は、「拠点福祉避難所」になります。「千葉県生涯大学校」の運営も請け負い、学生同士が共にする活動も展開します。四季折々、草木の変化のある「植草共生の森」もすごい。昨年度は、千人を超える地域の方々が訪れ、散策・竹細工・ザリガニ釣り等々を、楽しみました。29年の夏には、「ホタル」が飛び交います。ほんとです。子育て支援の「こいっくおく」も毎日。親子が学食で昼食を摂る姿は、本学ならではの和みの雰囲気。本学が会場提供で例えば、「わかば CBTこどものまち」のような小学生対象の催しも。いくつになっても、お子さん連れで、ご家族連れで、友達と一緒に、もちろんお一人であっても、足を運べば、元気を分かち合えるに違いない実家です。実家のたゆみない歩みと各同窓会・束ねる「さくら会」の益々の充実・発展を願って。



共生の森・田んぼの稲刈り

会長挨拶

植草学園短期大学同窓会 会長 宮内 美佳
(児童障害福祉専攻9期 介護福祉専攻1期の卒業生)

卒業生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。みなさんが毎年楽しみにしてくださっている会報が、今年もできあがりしました。この会報は母校とみなさんを結び、とても大切なものと考えています。学校関係での新しい情報や知りたいことなどがありましたら、記事として載せていきたいと思っておりますので、ぜひご意見をお寄せください。同窓会は、毎年新役員を迎え世代や学科を越え、明るい雰囲気の中で活動をしています。役員は総会・会計・HP・会報編集の係に分かれ、それぞれ活動しています。また、その他にも学校の行事に参加しています。これからも母校の発展や、会を盛り上げられるように、役員全員が責任を持ち、力を合わせ、精一杯務めさせていただきますのでご協力のほど、よろしくお願い致します。



同窓生通信

第16期生
佐伯 典子
(地域介護福祉専攻)



アルツハイマー型認知症により、ほぼ寝たきりで失語症の101歳の女性の食事介助をしていたときのことでした。ミキサー食のコロッケを口に入れると、その人は振り絞るような声で「おいしい…」と言ったのです。この人「しゃべれるんだ！」と私はびっくりしました。ほぼ3ヶ月毎日のように接していて、その人の声を聞いたのは初めてだったからです。その日から私は、出勤、退勤の際その人の部屋に行き、手をさすり「冷たいね、痛くない？」と声をかけ、介助に入る前にも毎回何をするか説明し、「やっても良い？」と聞いてから行うようにしました。3週間くらいたったころ、「ありがとね、痛くない。」と振り絞るような声で答えが返ってくるようになったのです。またまた、私はびっくりしました。基本を忠実に守るケアをすれば良い結果が出るんだと実感したからです。施設では時間に追われ業務中心になっているのが実情ですが、学校で学んだ「人間の尊厳」、その人にあったコミュニケーションを用いることを忘れてはならないと感じました。利用者の「ありがとう！」という言葉に感動し、介護の仕事にやりがいを見出した出来事です。

同窓会活動報告

- 平成 28年 5月 21日(土)
「平成 28年度同窓会総会」
「職場を語る会」
- 平成 28年 8月 20日(土)
「相談コーナー」(オープンキャンパスにて
入学検討者からの質問や相談に応じる)
- 平成 28年 11月 12日(土)
「大抽選会」(緑栄祭にてさくら会に協力)
「会報誌の企画」
- 平成 29年 1月 21日(土)
「ピオトップ祭り」(本学のイベントに参加)



本学のインターンシップの取り組みS評価

キャリア支援課 松本 和江

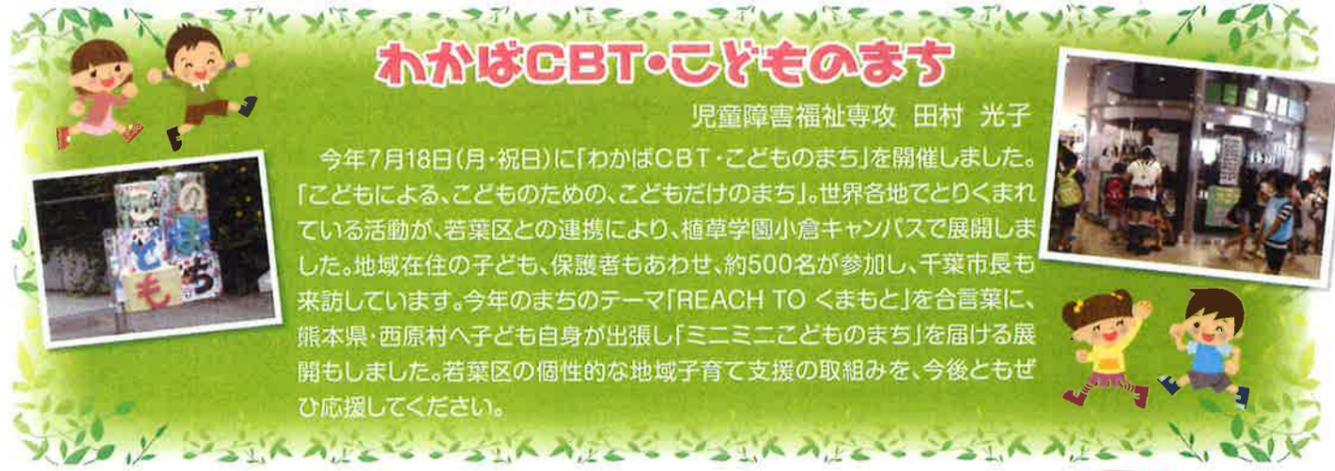
文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業におけるインターンシップ等の取組拡大(平成26~27年度大学教育再生加速プログラム)」が関域地域大学グループとともに、最終評価Sをいただきました。事業の一環である「千葉県第2回インターンシップフォーラム」に於いて本学代表学生は、児童養護施設でのインターンシップの体験を発表しました。学生にとって実習とともに専門職として現場に求められること、社会人・職業人としての様々な学び等を得ることができました。本学では、インターンシップやボランティア活動をキャリア教育として位置づけ、学生さんの積極的な参加を推進しています。



わかばCBT・こどものまち

児童障害福祉専攻 田村 光子

今年7月18日(月・祝日)に「わかばCBT・こどものまち」を開催しました。「こどもによる、こどものための、こどもだけのまち」。世界各地でとりくまれている活動が、若葉区との連携により、植草学園小倉キャンパスで展開しました。地域在住の子ども、保護者もあわせ、約500名が参加し、千葉市長も来訪しています。今年のまちのテーマ「REACH TO くまもと」を合言葉に、熊本県・西原村へ子ども自身が出張し「ミニミニこどものまち」を届ける展開もしました。若葉区の個性的な地域子育て支援の取組みを、今後ともぜひ応援してください。



「日本の介護」の海外への橋渡しは卒業生

学科長・
地域介護福祉専攻主任 布施 千草

今、介護の世界では、介護離職、人材不足の解消などが喫緊の課題となっています。課題解決の一つが外国人介護人材の受け入れです。具体的にはEPA(経済連携)に加え、在留資格に「介護」を加えることや「技能実習生」の実現です。そんな中、本校にも外国の方がお見えになることが増えました。

先日もA法人から、日本の介護福祉士養成校の視察に、9名の韓国の方が来校されました。通訳はA施設職員である卒業生の鎌形さん(旧姓李さん)、本学初の留学生です。とても有意義な時間を過ごしたと喜ばれました。卒業生の心のこもった通訳のおかげだろうと頼もしく、誇らしく感じました。



卒業生の鎌形さん(旧姓李さん)

「範子先生 ありがとうございます。」

ご逝去を悼み謹んでお悔やみ申し上げます

前学長 植草範子先生の生前の温かいご指導に対し、あらためてお礼申し上げます。今後も先生が私たちに教えてくださった事を忘れることなく、仕事に邁進してまいります。安らかにとお休みください。

編集
委員より

今年度は学園内だけでなく、外部の活動に参加したものも載せています。今後も数々の活動をご報告してまいります。年々発展していく学園へ、どうぞ遊びに来て下さい。短大同窓会では、同窓生が集まって近況報告や楽しむイベントも行います。懐かしい思い出とともにぜひ足をお運びください。

植草学園さくら会会報編集委員 池上清美・吉原萌

植草学園大学附属高等学校

故範子前副理事長

植草学園大学附属高等学校 校長 植草 完

さくら会報も回を重ね、学園の連合同窓会としての活動や大学・短大・高校・幼稚園・こども園などそれぞれの現状をお知らせし、同窓の皆様へ学園への御理解と御支援をお願いして参りました。お陰様で、高等学校入学者には同窓のご子弟や兄弟姉妹など、ここで学びたいという強い希望を持った生徒が多く集まります。中には同窓生推薦の制度を利用して受験される方々もいます。高校も昭和54年の開校以来、38年目を迎え、更に充実させるべく取り組んでいます。

もう多くの皆様をご存じのことであり、今回の会報でも他の方が触れられているかも知れませんが、前副理事長植草範子先生が平成28年4月14日に他になりに、通夜・告別式には多くの皆様に別れを惜んでいただきましたことをご報告いたしますとともに御礼を申し上げます。

範子先生は60年にわたり、植草学園に奉職されました。当初は服装専門学校の教員そして教頭として学生を指導されましたが、第二次ベビーブームの到来を受け、幼児教育の重要性とそれを担う人材養成が国や県の急務とされ、植草学園にも各方面から要請がありました。その担当者として幼稚園設置や幼児教育専門学校の創設に取り組み、何回も[文部省・厚生省](当時)に足を運び交渉を重ねました。そして昭和47年4月に一階が幼稚園そして二・三階が養成校という、常に園児を意識し勉学に励む環境を整えた幼児教育専門学校が完成しました。(詳しい経緯については植草範子著「ひとすじの道をたどる」に記されています)

その後、教頭・校長として学生の指導に当たり、時には高校生にも講話をいただきました。そして、平成20年4月に専門学校と短大を併合する形で植草学園短期大学の第四代学長に就任されました。学園は今年で113年目を迎えています。その半分以上の歴史に関わり、今に繋がる基礎を築かれた先生でした。これからもひょう先生・昭先生とともに学園を見守って下さることと確信しています。

我々教職員は、この永きにわたり学園を支えて下さった多くの先生方や職員の皆様の思いをしっかりと受け継ぎ、次の世代へ渡していかなければなりません。それがご恩に報いる唯一の道で有り、我々の使命と考えています。

会長挨拶

植草学園大学附属高等学校 会長 木村 昌代

同窓生のみなさまいかがお過ごしですか。いつも同窓会の活動にご協力とご理解をいただきありがとうございます。今年度は、これまでの同窓会総会をホームカミングデーとし、“堅苦しい挨拶ばかりより、ゆっくりとお話をしませんか。”というスタイルで行いました。互いの近況報告や昔話などに花が咲き楽しい時間となりました。

次年度も、みなさまのお越しをお待ちしています。



私たちの担任の先生は…

みなさま、この写真をご覧ください。制服は初代のものですね。そう、ジャンパー・スカート！ ショートカットの校則はまだだったのかな？ 修学旅行は国内？ で、担任の先生は？ えっ？ このお方は！

そう、故 植草 昭先生です。校長・理事長のイメージが強い植草 昭先生ですが、自らクラス担任をされていたことがあります。2年C組でした。植草 昭先生が全身全霊をかけて行った学級経営、ご自身も誇りに思っておられたのでしょうか、その体験談をよくお話していただきました。

生徒だったときの皆さんにとっての植草 昭先生は朝から晩まで学校のこと、生徒のことしか頭にないよう教育への情熱はつきることがないようでした。このお写真を提供して下さったのは、今年度1年生に在籍している現生徒の保護者です。貴重なお写真ありがとうございます。大切にもっていただきとてもうれしく思いました。みなさんも思い出の1枚ぜひ投稿してください。よろしくお願いいたします。



平成28年度同窓会総会報告

10月1日土曜日、雨空もなんのその校内発表開始時間前にもかかわらず、行列ができるほどの盛況ぶりです。高校では麗峰祭が開催されました。飲み物、食べ物の販売、ダンス・合唱・演劇といった発表、美術部、書道部などの展示、お化け屋敷、迷路などのアトラクション、高校生のアイデアを生かした企画のすべてを楽しもうとするとどうい時間が必要なのですか、休憩も必要です。麗峰祭に合わせて徐々に母校へ訪れたのなら余計に旧友と再会を懐かしむ場所が必要はす。そんな発想から今年は[同窓会総会会場]ではなく[Home coming space]として家庭科被服室を10:30から15:00まで開放しました。お立ち寄りいただいた皆様、ありがとうございました。今後、このようにしていきますので、友人同士、また恩師との再会の場としてご活用ください。総会も1時間程度開会します。こちらには校長先生にもご出席いただいて1年間の活動をご報告させていただいた後で集合写真を撮ります。こちらもよろしくお願いいたします。



緑栄祭に花を添えています。

緑栄祭

11月12日土曜日、植草学園大学では緑栄祭が開催されました。さくら会も毎年参加しております。1枚100円のくじを販売し、1等から10等まで(ときには11等ができることも!)豪華な賞品をそろえて(1位は千葉県が誇る某アミューズメントパークのペアチケットです!)、毎年早々に売り切れてしまうほどの人気ぶり! だいたいお昼過ぎに大抽選会が行われ、それに花を添えているのが、附属高校のバトントワリング部。チャーミングな笑顔とダイナミックなパフォーマンスで、観客を魅了します。これを楽しみにしているファンもつくほどです。みなさまも是非大学の緑栄祭にも足をお運びください。くじの収益金は大学のご発展を祈念して全額寄付させていただいております。



編集委員より

さくら会員のみなさま、いつもお世話になっております。今回も楽しんでいただけましたでしょうか? 私事ですが、スマホが壊れてしまい同機種と交換してもらいました。その際、保存してあった写真などバックアップを取ったはずでしたが、見事にきれいに無くなっていました。思いがけない断捨離に大パニックです。というのも母校訪問してくれた卒業生にインタビューし、お子さんとの写真も撮らせていただいたのですが、それも無くなってしまったのです。協力して下さったのは2008年度卒業の(旧姓)穂純さんと高橋さん。高校生のときはやんちゃで授業中も“元気”でしたが、今は良いお母さんでした。本当にごめんなさい。またぜひ会いに来てください。またまた私事ですが、卒業生の同窓会に招いていただくことがあります。そうすると高校生のときは可愛らしい女の子だったみなさんが立派に子育てをされていて驚かされ、とても嬉しい気持ちになりました。私生活なので異動がない分いつまでもこうしてみなさんとつながりをもっていられるのが良いなと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

植草学園さくら会会報編集委員 竹村・石澤・木村

植草幼児教育専門学校

会長挨拶



さくら会会長:小林さん(左)、石川(中央)、
会報編集委員長:鈴木さん(左から4番目)

植草幼児教育専門学校同窓会 会長 石川 明子

同窓生の皆様お元気でお過ごしでしょうか。会員の皆様におかれましては益々のご健勝とご活躍のこと、心よりお喜び申し上げます。日頃から同窓会活動に深いご理解とご支援を賜りまして心より感謝しております。

平成28年4月14日、私たち卒業生にとって恩師でもあり偉大なる母であった植草範子先生がご逝去されました。常に幼専のことを思っていてくださり「同窓会を守ってくれてありがとう」と温かいお言葉をかけてくださいました。いつも卒業生を案じてくださり、同窓会存続のためにお力を注いでくださいました。「範子先生!いままでありがとうございました。そしてこれからも私たち卒業生を見守ってください」心よりご冥福をお祈りいたします。合掌

今後は今まで範子先生と一緒に同窓会を守ってくださった黒田先生と、新に植草一世先生を顧問にお迎えして、同窓生の皆さんにとってより親しみやすい同窓会にしていきたいと思ひます。これからも同窓会存続のため、皆様の温かいご支援ご協力を賜りまして、役員一同微力ながら頑張っていきます。同窓会としての役割を果たすためには皆様のお力添えが不可欠です。一人でも多くの同窓生が同窓会にご参加くださいますようお願いいたします。

亡き範子先生を偲んで



平成19年 教壇に立たれる範子先生

黒田 静江

範子先生が、平成28年4月14日(木) 未明にお亡くなりになりました。植草範子先生は、植草幼児教育専門学校の設立にご尽力され、36年間学生を育て学校を育ててこられました。また閉校後は植草学園短期大学学長となられ、卒業生の支援と学園の発展を願って「さくら会」の発足に力を尽くされました。

学園の校訓である「誠実・努力・謙譲」を土台に、範子先生は常に様々な機会に「保育の専門職に就く人を育てる」ことを大事に考えておられました。校長となられてもその気さくで素直なお人柄は変わらず、研修旅行やなかよし祭ではいつも学生と楽しみや喜びを共にし、ある時は厳しく諭してくださいました。大変責任感が強く誠実で思いやりの深い方でしたので、閉校後もずっと4000名弱の卒業生のことをお心に掛けておられました。私人としては、妻として、母として、お嫁さんとして本当によくご家族の為に尽くされており、私のような凡人には到底真似のできないようなこともありました。範子先生からは「一歩先に行動すること」、「物事はいろいろな見方や考え方があるので、尊重し合いながら率直な意見を出し合うことの大切さ」など多くの事を学ばせていただきました。範子先生、ありがとうございました。範子先生は、きっと天国で昭先生やひう先生そして佐古先生、岩野先生と再会され、幼専のことを懐かしくお話されていることと思ひます。

今までお世話になりましたご恩情に感謝いたし、心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌



箱根研修にて 学生たちとの微笑ましい1枚



音楽室、ピアノ前での集合写真!
懐かしい先生方の笑顔が並んでいます。



平成19年度運動会
選手宣誓での1枚

学校法人植草学園は千葉県生涯大学の 管理運営に関する協定書を締結 平成28年2月23日



学校法人植草学園は、千葉県が設置している生涯大学の管理運営に関する協定書を締結しました。生涯大学は、55歳以上の方が、新しい知識を身につけ、仲間づくりを図り、学習の成果を地域活動に役立てるなどの社会参加、福祉施設、学校等におけるボランティア活動、自治会の活動の担い手となることを促進することを目的に県内5地域に設置されています。本格的な少子高齢化の進展にともない、高齢者福祉は様々な面で課題を抱えています。その中で植草学園が協働、協力できることを千葉県とともに考えながら進め、取り組んでいきます。ご興味のある方は各学園に直接お問い合わせください。

植草学園大学附属弁天こども園がスタート

平成21年に千葉市認可の定員30名の小規模保育園の開園から7年、28年4月に、幼保連携型認定こども園「植草学園大学附属弁天こども園」がスタートしました。0歳児から5歳児までの子ども約140名が在園しています。

植草学園の建学の精神(徳育教育=心の教育)を保育の基盤として、一人ひとりの子どもの最善の利益を保障し、人格形成の基盤と未来を拓く力を培い、こども園の社会的役割を認識し、人と人のつながりを大切にしたい豊かな社会づくりに貢献することを設置のポリシーとし、新たなスタートとなりました。



「弁天サロン」月に一度程度開催
在園児の保護者対象



「アトリエ」廃材を使い素敵なものづくり
在園児の保護者対象

植草学園さくら会 第7回「大抽選会」報告

植草学園さくら会企画「大抽選会」は、多くの皆様のご協力をいただき、盛会に終えることができました。10万円の売り上げを学園に寄付いたしました。開催日:平成28年11月12日(土) 大学緑栄祭

訃報

学校法人植草学園 植草範子 元副理事長におかれましては、平成28年4月14日に永眠されました。(享年85歳)



故 植草範子 元副理事長は、植草幼児教育専門学校長、植草学園短期大学学長を永年に渡り務められ、学園の振興、発展に多大なご尽力をいただきました。

優しく時に厳しく、学生の一人ひとりに常に声をかけてくださいました。すべての学生を我が子のように愛し大切にしてくださいました。また、さくら会顧問としても沢山の力添えをいただきました。ここに植草範子先生のお人柄を忍び、ご厚情に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

植草文化服装専門学校、植草家政高等専修学校同窓生より

植草文化服装専門学校 高等科 昭和45年度卒業 鶴岡 留理子(旧姓 齊藤)さん

植草文化服装専門学校本科、高等科とお世話になり、その後高等科の担任でもありました岡田先生より、その年開校になる植草幼児教育専門学校を薦めていただき一期生となりました。

一年目の学園祭、友達と遅くまで学校で展示する油絵を描いている時、もう遅いからと今年4月に永眠された範子先生に車で自宅まで送って頂きました。植草幼児教育専門学校を卒業し、稲毛の幼稚園に勤め、初めて幼専のクラス会を行う準備に母校へ、学友と準備をしていると範子先生はお昼にご自宅に招いてくださって、お手製のつゆでそうめんを頂いた事を思い出します。蟹からお出し汁を摂ったもので、コクがあって、それはそれは美味しいものでした。今、思い起こすと一期生である私たちは31人の少人数という事もあるのでしょうか、先生方との触れ合いは

とても濃く充ったのだと今更ながらうれしく思います。卒業してからも時折学園を訪れ、その度に温かく迎えていただけて幸せです。

さて、文化服装を2年間お世話になった私の縫い物はどうであったかと言いますと、基本単位はクリアーし、自由課題は30単位以上と決まっていたのですが、本当に30単位というギリギリで卒業いたしました。当時縫い物は自分には向いていないと思っていましたが、結婚し娘を設け、双子の孫を持った65歳の今、その時の2年間の教への成果でしょうか、人生の中の辛い時々の一針一針となっている事に気が付きました。針を持つと心が落ち着くと言いますか、いつの間にか心の安定となってきているのです。それに不思議、今は針を持つ事が好きなのです。苦手な物も時間を経て変わって行くのだと、その後の仕事にも感じています。つい最近36年間勤めた仕事を卒業しました。そう思えるのは私も時間が経ったからです、きっと。

正に人生に無駄は一つも無いのだとつくづく思います。



さざなみ幼稚園の同僚と写真中央 鶴岡さん



植草幼児教育専門学校
玉川学園見学(昭和47年6月21日)



第1期生(昭和49年3月卒業)
後列左側より4人目 鶴岡さん

植草文化服装専門学校 技術専攻科 昭和51年度卒業 塩田 美和子(旧姓 森)さん

私は文化服装専門学校の本科・高等科・技術専攻科の3年間お世話になりました。本当に月日の経つのは早いもので、植草学園を卒業して40年になります。在学中の2年目君津からの遠距離通学は困難で進学を迷っていた時に、範子先生から同郷の縁でご自宅に下宿させてくださるお話をいただきました。私はとてもうれしくお世話になることを決心いたしました。新学期に合わせ3月末日、親元を離れる不安と大好きな洋裁が思いっきり出来るという大きな夢を持ち植草家を尋ねました。ちょうどこの時、玄関前の白木蓮の花が満開で私を迎えてくれた事は忘れられません。この日から先生は洋裁は元よりお料理や接客、電話の対応や掃除の仕方などにいたるまで女性としての嗜みを指導してくださいました。また、先生のご配慮で沢山の教材をお預かり

で私は生涯洋裁を職業とする基礎を身につけさせていただきました。

この頃先生は、早朝「倫理の会」の勉強会に出席し、専修学校制度改正の仕事やあらたに植草学園に幼児教育を新設するためにお力を注ぎ、毎日夜遅くまで奔走していたように記憶しています。先生の常に謙虚で誰に対しても優しい態度は、お手本とするところでした。

時が経ち娘が植草学園短期大学に入学した時も、小倉キャンパスにて満開の桜と共にやはり先生に、お迎えいただきました。私達親子はともどもお世話になり大切な思い出になっています。3年前、昭先生が亡くなられてご自宅に伺った時でした。先生とお茶を飲み久しぶりに昔話に花を咲かせ、抱き合いお別れしたあの日が最後になってしまいました。激動の昭和を生き抜き、短大、大学開学の平成と全力で常に先見の明を持ち走り抜かれ、生涯現役を貫き通したと伺いました。先生のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、長い間の沢山の慈しみに感謝します。

合掌



娘の卒業式に



ご家族皆さんとご一緒に
ほう先生の後ろが塩田さん(昭和50年)

平成28年度 植草学園さくら会役員

- 顧問 植草和典 植草完 浦野俊則 中坪晃一
- 会長 小林鶴枝
- 副会長 石川明子 木村昌代 宮内美佳 西川嘉人
- 監事 岡田泰子 古川麻由美
- 理事 齊藤京子 早川佐知子 松本珠代 鈴木朱美 小笠原晴代
信田一美 岡田眞貴子 竹村美紀 金久保利一 高橋成光
井上真里 木下裕美子 小泉仁美 石井涼平
- 合同企画委員長 宮内美佳
- 会報編集委員長 石川明子
- ホームページ委員長 石井涼平 ● 代議員 各校より計20名
- 大・短同窓会協力委員会 黒田静江 今井訓子 村上悦子 久保隼人 荒金房子 田上未来
- 高校協力員 根本薫雄 ● 学園事務局 手塚千俊 ● 事務局 キャリア支援課

植草学園さくら会ホームページ

植草学園大学、植草学園短期大学のホームページメニューから、「植草学園さくら会(連合同窓会)」をクリックし、植草学園同窓会のホームページにお入りください。

URL <http://www.uekusa.ac.jp/>

会報誌の発送停止・住所変更に関することは
各同窓会係まで

大学・短大：キャリア支援課 043-233-9080

高 校：附属高校 043-252-3551

幼 専：美浜幼稚園 043-277-2361

(学校業務のため16:00以降にお願いします。)